

Eastern Glory Records オフィシャル・コンピレーションアルバム「the Unconsumables」
EGR-0001 \1,500(tax in) 2012/4 Release
公式ライナーノーツ

「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉があるが、日々巷に溢れる楽曲、音楽シーンのメインストリームでは、チャートの二極化、楽曲やアーティストたちが入れ替わり立ち替わり姿を消していく…。商業化された音楽たちが大量消費されていく感が否めない。そこには、アーティストや音楽を育む土壌がないようにも思える。作品(楽曲)は、アーティストにとって生き方そのもの、スピリッツ、メッセージである。同時にオーディエンスの人生や生き方、心に寄り添うもので、時代の流れとともに消費されるものではない。Eastern Glory Records が放つ、所属アーティストによる第1弾コンピレーションアルバム「the Unconsumables (非消耗品)」は、そんな時代や流行に左右されることなく、真っ直ぐに音楽という生き方を追求するアーティストたちの姿勢やメッセージが詰め込まれていると言えるだろう。

激しく力強いストレートなメッセージを叩き付けてくる NAKED SPY の『MESSIAH』や『MIZERABLE DEAFMUTE』。天使・悪魔、人間といった三位一体のヴィジュアルコンセプトにも通じる光と影がメロディアスな旋律とハードなサウンドの中で交差する Noye Crois の『Birth』。UNDHIFEAT の『UNDHIFEAT』は、酔いしれるようなスピード感溢れるギター、DAI のハイトーンボイスが“激しく重く美しく”心を貫く。

また、デジタルサウンドに乗せ歯切れのよいボーカルを心地よく響かせるロンサムの『星の花』や、等身大の世界観にふっとロずさみたくなるメロディー『君に出会えて』の南紗椰のピアな歌声、そして、波のように引いては満ちていく旋律と語りかけるような歌声が心に波紋となって広がっていく、奥島佐珠の『土埃の花嫁』など、女性アーティストがアルバム全体に瑞々しい清涼感を添えている。

さらに、ハイパーな独特な音世界へと誘う Sweet Butterflies の『Wisdom』、クラシックで鍛えられた懐の広い歌声が印象的な伊藤道太郎の『雨心』がネオ歌謡曲的なひと味違う魅力を醸し出すほか、パンク・ポップロック調の小気味いいビート感を奏でる Aplexion9 の『トリップ』や、うねるサウンドと絡みつくようなボーカルでダイナミックな存在感を示す ZAMA の『Space Elevator』、疾走感&メロディアスなギターサウンドと温もりあるボーカルで詩の世界観をダイレクトに伝える Archemy Crystal の『Everlasting』など、未知数の可能性を秘めた若手からベテランまで、11組12曲による多彩で刺激に満ちた“Unconsumables (消費されない)”な楽曲が満載だ。

「Eastern Glory Records について」

現在、多くのアーティストの楽曲、作詞者、作曲者等の権利は、社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)などが集中管理業務を行い、音楽著作権法によって保護されています。しかし、それと同時に、デビューや契約時にアーティストの意志とは関係なくレコード会社やレーベルに著作権を奪取され、知らないうちに音楽出版社に譲渡されているなど、自分が作った作品であるにも関わらず、自由に使用出来ないという問題も生じています。確かに、レーベルや音楽出版を通じて著作権の管理委託することで著作物は計画的に扱われ、大規模ビジネスに対応しやすいというメリットもありますが、問題の多くはアーティストの自主的な判断で出版や管理会社を選択出来ないことや、著作権が譲渡されたことに気づかないということにあります。そこで、そのような音楽シーンの現状を踏まえ、Eastern Glory Records では、著作権を一切奪取しません。基本的にアーティストに権利を保持させ、希望する場合のみアーティスト自身が著作権譲渡や管理委託をするという形で、アーティストの自由な音楽活動をバックアップしていきます。

(ライター海老原澄画)